

前橋市生涯学習
奨励員連絡協議会

責任者 大井常利

事務局
前橋市教育委員会
生涯学習課内

〒371-0023
前橋市本町2-12-1
前橋プラザ元氣21
3階

☎(027)210-2198

歴史を知ることとは町を知ること

三中区生涯学習奨励員 庭野 剛治

郷土愛を育む

町を知るにはどうしたらよいでしょうか。

まずは普段、車で通っている道を歩いてみましょう。車では一瞬でも、歩いてみると違う風景が広がります。こんな所に小川、大きな木、神社があったなど、目先を変え、と新しい発見があります。

そんな時、助けになるのが地域の方々です。昔からの住人であれば、地域の歴史を知っています。生の情報ほど貴重なものはありません。今はインターネットの普及で一般的な事柄は検索すれば出てきますが、地元の話は出てきません。歴史が面白くないと思ってしまうのは、自分には関係ない、遠い歴史の話と感ずてしまうことが一つ

町の歴史は地域の人から

の原因です。自分に関係が近ければ興味を持つと思うのです。

戦後、日本は軍国主義の否定と同時に愛国心や郷土愛というものを置き去りにしました。これは一方では正しかったかもしれませんが、やり過ぎた面もあると思います。地元への郷土愛がなければ地域活動とはなりません。町内への興味が無い原因はやはり、町を知らないからです。



興味を持つ仕掛けづくり

興味を持つ仕掛けづくりも重要です。東京では、新旧様々な標識や看板、石碑があり、飽きませんし、次は何に巡りあえるかといった楽しみもあります。東京駅八重洲口前には、近くの現場から発掘された江戸城外堀の石垣を花壇として再生。また、同じ八重洲口の地下道には、ヤン・ヨーステンの銅像があり、こ

こにある屋敷が八重洲の名前のもとになったことを顕彰しています。地下道にまでと思いましたが、歴史の上に今の町が形成されていることを思うと、しつこいぐらいに歴史拠点の表示があることも悪くはないのではと思います。

前橋市にもサポートしていただきながら、地域の歴史を掘り起こし、看板や案内板などの設置を強く希望します。町歩きが楽しくなるように、前橋が歴史都市となるように、生涯学習奨励員の活躍がますます重要になってくると感じています。

「共感」を呼ぶ紙面づくりへ向けて

広報紙まつりでワンポイントレッスン

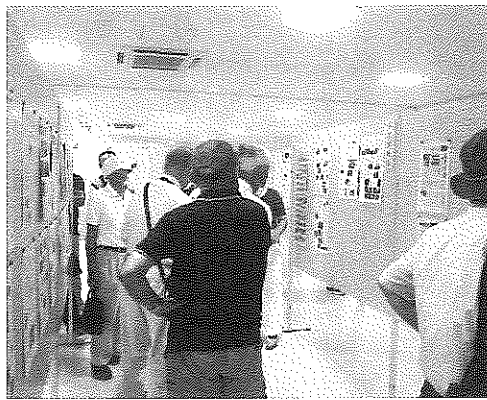
九月二日に行われた「生涯学習フェスティバル2023」の各町広報紙展示会場において、前奨連会長大井常利氏から「広報紙のつくり方レッスン」が開催されました。各町の五〇人を超える奨励員の方々が集まり熱心にレクチャーを受けました。三つのポイント「感動を伝える記

事づくり」「見出しは紙面の命脈を握る」「読者の目を引き、読みに誘うレイアウト」を丁寧に解説されました。その後には広報担当が地域を分担し、実際の紙面を見ながらワークシヨップが行われました。

コロナ禍で生涯学習や自治会事業も中止となり、広報紙を休んだ町や発行している町、これから作りたいと思っている町、回数や紙面の大きさは様々でした。最近ではパソコンを容易に使いこなし、デジタルカメラでの写真を上手く取り入れ、地域の様子がリアルに伝わってくるものが多く見られました。さらにワンポイントレッスンを聞くことで、読者に親しまれるような紙面にしたいとの熱意が伝わってきました。

奨励員の目指す町づくりの一つに広報紙づくりがあげられるのではないのでしょうか。

今回の生涯学習フェスティバルを機にさらにステップアップしてみましょう。生涯学習フェスティバル2023の全体については、四面に掲載しています。



わが町広報紙まつりの様子

(広報委員長 持田みね子)

地区だより④

糸の町の変遷

前奨連理事

旧四中地区・国領町二丁目奨励員

関 壽夫

旧四中地区は、旧町名の国領・才川・清王寺から成り、現在の国領・若宮・日吉の一〇の自治会で構成されています。桃ノ木川・吉野川に囲まれ、佐久間川が南北に地区の中心を貫き、やや離れて広瀬川が南部を流れています。

『県都前橋 生糸の市』から

文教地区へ

生糸は、横浜開港によって最大の輸出品となりました。欧州市場では、前橋産の提げ糸をその品質の良さから、「マエバシ」と呼び、日本の近代化と共に前橋も発展してきました。昭和期にかけては、才川・国領町の豊かな水利と、勢多・赤城の養蚕地域を背景に製糸業が隆盛を極めました。しかし、昭和四十年代になると、産業の中心が重工業へと転換。生活様式も変化して、丸登・丸二・郡是・丸大製糸・井口製糸工場等が次々に姿を消しました。高い煙突からの煙や、自動織機の音、繭を煮る匂いが今でも思い出されます。

現在の地区内には、県民会館・県立図書館・放送大学・社会福祉会館・国立や市立の教育機関があり、国道十七号線と東部バイパスに囲まれた文教地域となっています。

『外部からの協力を得て

活性化を目指す』

令和五年、新型コロナウイルスの分類が「五類」に引き下げられ、社会活動も平常に戻りつつあります。一方、少子高齢化や地域の行事に参加しない人が増え、行事の担い手が減ってきています。そこで、外部からの協力を得て町の活性化を図っています。納涼祭でのキツチンカー導入、他地区の八木節保存会や高校の郷土芸能部への出演依頼が見受けられました。特筆すべきは、東地区を参考にして「ウォーキングわかみや」が立ち上がったことです。一〇カ所のチェックポイントを設定し、地域の史跡や公園を巡り、健康増進にも役立てる企画です。今後は、各町の宝物(潮太郎の「才川」詩碑・イギリス積レンガ倉庫レプリカ・機銃掃射の弾痕の残る二十二夜供養塔など)を掘り起こし、学びの機会とするところが奨励員の活動の場ではないでしょうか。

生涯学習奨励員。いま、わが町で。

四年ぶりの祭りで楽しいひと時

旧四中地区・若宮町奨励員

近藤 日出夫

若宮町四丁目の住民数は、三九八所帯八一一名(男子三八五名、女子四二六名)です。年齢別にみると、一五〜六五歳層が多く、六六歳以上がやや少なくなり、一五歳未満は、極端に少なくなっております。

一つは、前橋幼稚園の東隣りにあり、広い面積でゲートボール等利用され、トイレも近年新築され、憩いの場所となっております。

二つ目は、石井県道と赤城県道に挟まれた桃ノ木川沿いに緑地公園があります。鉄棒・簡単な遊具、そして飲み水もあり、近隣からの散歩途中の皆様には重宝されております。

年二回の公園掃除があり、三役、組長、そして町内の人、また町内外の会社の社員さんも自発的に参加いただいております。



今年十月には、四年ぶりに町内祭りが実施されました。屋外では、カキ氷、ビール、焼きそば、子供向けゲームがあり、屋内では、輪投げ、ダーツ等で賑やかな楽しいひと時で

した。特に町内法人会社の出店(ポップコーン販売)もあり、感謝申し上げます。

山車の町内巡行も計画されましたが、四年間のブランクで、鳴り物の指導者・前任者もいなくなり、大変苦労が重なりました。先輩達の経験と実力で、鳴り物のテープを作成・手本にして毎晩稽古をしました。子供達の賢明な努力とお母さん達の協力で、例年の「四丁目の音」ができ上がり、二日間の町内巡行も無事終了、次年度への引継ぎもできました。

時代も変わり、各公共機関や団体・施設からの出前講座も盛んとなり、実施されていますが、各町内にも一芸に秀でたり、特殊技能の人材もいるかと思えます。こんな情報交換もよろしいのではないのでしょうか。

三俣町の現状と自治会行事

桂萱地区・三俣町二丁目奨励員

小坂橋 敏彦

三俣町は、昔桃ノ木川と広瀬川に挟まれた低湿地帯で、三俣は古利根川が流れていた頃、流れがこのあたりで分流し、三又(俣)になっていたというのが地名の由来のようです。

現在一丁目の人口は一、五三九人、七七〇世帯。人口は減少傾向ですが、世帯数は増えています。中心市街地にも近く、交通の利便性も高いなどの理由で若い世帯の転入も多く、家の新築工事が頻繁に見受けられるようになりました。一方で世帯数が増えるにつれ、独居高齢者の対応が

急務となっています。

様々な活動の復活と

絆と活気の町づくり

三俣町一丁目を語る上で欠かせないのが三俣神輿です。前橋祭りに平成元年から神輿を繰り出し、今年出場三十一回目。三俣神輿の写真を基に、今年も神輿カレンダーを作成する予定です。

「どんどん焼き」も町の恒例行事の一つです。一般的には「どんど」ですが、三俣町では昔から「どんどん」と伝え

られています。最近公園南側に住宅が建つたため、トタンの囲いを組んで、燃え移らないよう、安全に留意して行っています。

一年を通じて年間八回『いきいきサロン』を実施、また三十三回にわたり芸能発表会も開催してきましたが、平成二十九年から高齢化と出演者減で休止しています。早く復活したいものです。

町内に三俣神社があるのも特徴の一つです。三俣三町で『三俣神社奉賛会』を組織し、季節ごとに神事を

行っています。

他に春は『歩け歩け大会』、夏の『納涼祭』、また二〇一五年からは『育成会・青年会合同バーベキュー大会』を実施、これは若い世代の交流に役買っています。創作の成果を発表する『住民作品展』は四〇回開催。コロナ禍で休止しましたが、今年の暮れには復活します。

これからも様々なイベントが実施されて町民の絆と活気のある街づくりが続くよう、役割を担ってまいります。

十日夜の行事で様々なことを学ぶ

清里地区・池端町奨励員 鹿島 忍

前橋市の西の端、耳たぶのように飛び出ているのが清里地区で、その中の一番北側にあるのが池端町です。

池端町の活動としては、十日夜が一番大きなものです。十日夜は農家の皆さんが農作物の収穫に感謝し、モグラよけと翌年の豊作を願うする、昔から伝わる子供中心の行事です。昔は大人と子供が一緒に藁鉄砲を作り、藁鉄砲を持った子供達が集まり、各家々を回り、わらべ歌を歌いながらモグラや野ネズミを追い払う意味で、藁鉄砲で一生涯懸命地面を叩きました。

現在の十日夜祭は、公民館に小学生以下の子供達を集めて行います。町の小学生は総数四十余名で、全員参加で

はないので未就学児も含めて三十名ほど参加しております。

まずは、生涯学習奨励員が「十日夜の紙芝居」を観せて十日夜について知ってもらい、藁鉄砲で叩くときの歌も練習します。その後、老人会の人達を中心に、大人が子供に教えながら藁鉄砲を一緒に作ります。藁鉄砲は鬼の金棒をかたどったもので、稲藁に縄をぐるぐると巻き付け、手で持つ部分は藁の先の部分を輪にして作り、持ちやすくなります。作り終わると皆で歌を歌いながら藁鉄砲を打ち鳴らします。

それが終わると餅つきと、あんびん餅、きなこ餅、からみ餅、ゴマ餅作りを体験してもらってから餅を食べてもらいます。その他に綿菓子とポップコーンの提供や輪投げ、バルーンアートの遊びも行っています。この辺は農家が多いので、畑を見る

小学生と清掃活動

粕川地区・粕川町中之沢奨励員 町田 稔

ともぐら塚が点々とあるのが分かります。昔から伝わるこの行事はとても意義深いものがあると思います。今後とも続けていきたい行事の一つです。

中之沢は、粕川地区では小学生数も数えるほどのコンパクトな集落です。自分たちの暮らす地域を少しでも快適なものにするための具体的なアクションとして、中之沢住民センター周辺の道路脇のごみ拾い活動を行っています。

メンバーは、自治会の役員さん、環境美化委員さん、育成会の子供さんと保護者の皆さんに加えて、生涯学習奨

励員と、様々なメンバーで構成され、年齢層は小学生から超シニアまで多様なものとなりました。

貴重な社会貢献活動

小学生にとっては、祖父母と同じ年配者と気持ちを同じくしてする作業体験は、新鮮なものに見受けられました。夏の暑い日差しの中で、トンクを手にごみ拾いをすることは社会貢献活動としては貴重なものであり、なにより体験になったことと思います。

雑草に埋もれた空き缶や、泥まみれになっているペットボトルやプラスチック製品もあり、一つ拾うたびにそこが綺麗になることを実感することができました。一時間近くの作業でたくさんのごみが回収でき、可燃ごみと不燃ごみの分別後のご苦労さん会では、参加者のすがすがしい満ち足りた表情が印象的でした。

コロナ禍で様々な行事が取り止めになりました。中之沢の生涯学習奨励員として具体的な実践活動ができず、忸怩たる思いを持っていましたが、多少の務めが果たせたことに喜びを感じました。





初の試み 展示期間延長

九月二日、令和元年以来コロナ禍で途絶えていた生涯学習フェスティバル2023が前橋プラザ元氣21で開催されました。

十時開始の開会式では、生涯学習推進本部長(山本市長)、副本部長(吉川教育長)並びに大井前奨連会長の挨拶の後、中山前奨連監事の指揮のもと前橋市の歌「赤城嶺」の合唱でフェスティバルはスタートしました。

三階ホワイエでは、前奨連によるわがまち広報誌まつりと

テーマ展示、更に専修学校、各種学校コーナーが設けられました。わがまち広報誌まつりでは、市内二八四の自治会の内一〇六の自治会から、それぞれ自慢の「広報誌」の展示がありました。



テーマ展示「わがまち紹介」の様子

展示コーナーの一角では、奨励員・自治会役員など五〇人余りが参加し、より良い広報誌づくりのための研修会が行わ

前奨連副会長 笠原 弘

れていました。

テーマ展示では、中学校区をベースにした市内二〇地区のうち一九地区が出展。テーマは恒例の「わがまち紹介」ということで、各町の事柄が写真や絵で工夫を凝らして展示されていました。例えば、町のイベント、古くから伝わる自慢の遺物・遺構、伝統行事、特色ある町の風景等々。専修学校・各種学校の展示では、学校案内パンフレットなどが展示さ

他団体とのコラボで より内容を深める

れていました。なお、ホワイエでの展示はより多くの人々に観ていただけるよう、初めての試みとして九月八日までの一週間の展示でした。

親子三代で楽しもう

三階のホールでは、来場者と当事者が対面で交流できる多くのコーナーが設けられました。割箸輪ゴム折紙などでオモチャ作りをする前奨連城南地区の昔あそびコーナー、牛乳パック紙コップなどの家庭ごみでオモチャ作りをする前奨連大胡地区のリサイクル工作コーナー、国立赤城青少年交流の家による缶バッジ工作コーナーなどの物作



昔あそび・リサイクル工作ひろばの様子

温暖化防止に関わる呼びかけと資料説明等の環境コーナー(県温暖化防止活動推進センター)また、今回初参加の県骨髄バンク推進連絡協議会により、その重要性和大切さを訴える骨髄バンクコーナーといった、様々な団体に協力をいただきました。

今回はコロナ禍余波の影響が酷暑の影響か、何れにしろ来場者の数が例年に比べて少なかつたようでした。

恒例の生涯学習実践研究発表会 実施日程

ブロック名 会場	地区名 コーナー名	実施日時
第1ブロック 中央公民館	一中 旧二中 三中 旧四中 五中 三中地区理事:岸 洋一	R5.12.13(水) 午後1時30分~
第2ブロック 上川淵公民館	上川淵 下川淵 永明 上川淵地区理事:塩原 義生	R5.12.11(月) 午後1時30分~
第3ブロック 東公民館	東 元総社 総社 清里 前奨連会長(総社地区理事):大井 常利	R5.12.6(水) 午後1時30分~
第4ブロック 富士見公民館	芳賀 南橋 富士見 前奨連監事(芳賀地区理事):中山 洋子	R5.12.15(金) 午後1時30分~
第5ブロック 城南公民館	桂萱 城南 大胡 宮城 粕川 前奨連副会長(大胡地区理事):笠原 弘	R5.12.18(月) 午後2時00分~

あゆみ (8月~12月)

▼II 主要事項

- 8・22 ■生涯学習フェスティバル2023第3回代表者会議▼フェスティバルの開催内容確認▼次回会議計画 ■第3回理事会▼フェスティバルの開催計画・内容確認
- 9・1 ■生涯学習フェスティバル2023会場準備作業
- 9・2 ■生涯学習フェスティバル2023前奨連関係II〇わが町広報紙まつり〇テーマ展示〇その他
- 10・26 ■生涯学習フェスティバル2023第4回代表者会議▼令和5年度開催結果▼令和6年度開催計画
- 第4回理事会▼フェスティバルの総括▼生涯学習実践研究会開催計画
- ▼前奨連セミナー開催計画
- 12・6 ■生涯学習実践研究会▼第3ブロック(東、元総社、総社、清里)(会場 東公民館)
- 12・11 ■生涯学習実践研究会▼第2ブロック(上川淵、下川淵、永明)(会場 上川淵公民館)
- 12・13 ■生涯学習実践研究会▼第1ブロック(一中、旧二中、三中、旧四中、五中)(会場 中央公民館)
- 12・15 ■生涯学習実践研究会▼第4ブロック(芳賀、南橋、富士見)(会場 富士見公民館)
- 12・18 ■生涯学習実践研究会▼第5ブロック(桂萱、城南、大胡、宮城、粕川)(会場 城南公民館)